

小学校第6学年

国語 B

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1ページから12ページまであります。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、40分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 机つくえの上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

問題は、次のページから始まります。

六年二組の池上さんの学級では、「友情・協力」という学級目標の達成につながるような学級の旗を作ることになりました。次は、学級の旗のデザインを決めるために話し合っている様子の一部と、記録係が発言などをまとめた黒板の一部です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【池上さんの学級で話し合っている様子の一部】

池上(司会) (議題についての説明) ()

まず、黒木さんと竹中さんに提案をしてもらいます。二人の提案をもとに話し合いを進めていきましょう。それでは先に黒木さん、次に竹中さんの順でお願いします。

黒木 わたしが考えた旗は、黒板にはった上のものです。学級目標の「友情・協力」を強く意識できるように、この言葉を大きく書くことよと考えました。

竹中 ぼくの場合は、下の旗です。「友情・協力」という学級目標の達成のために、「声をかけ合う」を合い言葉にしたらよいと思いました。特に、男女が仲良く協力し合うことが大切だと思うので、男女二人の顔の絵を入れました。

池上(司会) 黒木さんの提案と竹中さんの提案に共通する点は、旗の中に大切にしたい言葉を書くということです。ただ、その言葉が学級目標そのものか、それとも合い言葉にするかということがちがいます。また、絵を入れるかどうかもちがう点です。旗の中に言葉を書くということは、決定してもよいですか。

(右下に続く)

全員 はい。

池上(司会) それでは、どのような言葉を書くか、絵を入れるかどうかという二つのことについて話し合ってください。では、意見をを出してください。

西野 ぼくは、旗に書く言葉は、黒木さんが提案をしたとおり、学級目標の「友情・協力」がよいと思います。学級目標の言葉の意味を考えて行動するようになるからです。

小林 ①わたしは、竹中さんの「声をかけ合う」という言葉のほうがいいと思います。学級目標を達成するための行動が具体的に分かるからです。

青山 ぼくは、男女二人の顔の絵を入れることに賛成です。それに加えて、言葉と絵とを関係付けた意見ですが、口にふき出しを付け、その中に「ありがとう」や「手伝うよ」など、かけ合いたい言葉を書くのはどうでしょうか。

原田 青山さんの意見に賛成です。ただ、顔の絵については、学級全員分のほうがよいと思います。一人一人にふき出しを付け、その中に自分が考えたかけ合いたい言葉を書くことよ

(左上に続く)

と思います。学級全員の気持ちを大切にすることにつながるからです。

池上(司会) みなさん、黒板を見てください。

青山さんの意見と原田さんの意見に共通する点は、旗に顔の絵を入れ、

ア

ということですか。ちがう点は、

イ

ということですか。ちがう点について意見を出してください。

岩村 質問があります。この旗は、いつも教室のかべにはっておくようにするのですか。

竹中 それは今、話し合わなくてもよいと思います。

池上(司会) ② ちよつと待ってください。今の

岩村さんの質問は、大事なこともかもしれません。岩村さん、どうしてそのような質問をしたのですか。

岩村 行事のときなど、教室の外で旗を使うことも考えると、言葉や絵の入れ方も変わるのではないかと考えたからです。

池上(司会) なるほど。岩村さんは、外で旗を使うことを考えると、言葉や絵をどのように入れたらよいと思いますか。

〜(話し合いが続く)〜

【記録係がまとめた黒板の一部】

〈議題〉学級の旗のデザインを決めよう

黒木さんの案

友情・協力

6年2組

竹中さんの案

6年2組

声

をかけ合う

■言葉について

◇学級目標そのもの

〔西野〕学級目標の言葉の意味を考えて行動するようになるから、「友情・協力」がよい。

◇合い言葉にする

〔小林〕

A

■絵について

◇絵を入れない

言葉と絵とを

関係付けている。

◇絵を入れる

〔青山〕男女二人の顔の絵に加え、かけ合いたい言葉を書く。

〔原田〕青山さんの意見に賛成だが、顔の絵は学級全員分にする。

〜(まとめた内容が続く)〜

一 記録係は、西野さんの発言を黒板に書きました。同じような書き方で、① 部の小林さんの発言を書きます。【記録係がまとめた黒板の一部】の A の中に入るふさわしい内容を、「くから（理由）、くがよい（意見）」という文の形にして一文で書きましょう。

二 司会の池上さんは、出された発言に合わせて話し合いを進めています。次の問いに答えましょう。

(1) の発言は、青山さんの意見と原田さんの意見に共通する点とちがう点を整理したものです。 ア ・ イ の中に入るふさわしい内容を、次の条件に合わせて、発言の前後の言葉につながるようにしてそれぞれ書きましょう。

〈条件〉

○ ア ・ イ それぞれ、次の の四つの言葉の中から二つずつ使って書くこと。ただし、 の四つの言葉は、一回しか使うことができません。

○ ア ・ イ それぞれ、二十字以上、三十字以内にまとめて書くこと。

- 男女二人
- ふき出し
- 学級全員分
- かけ合いたい言葉

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

青山さんの意見と原田さんの意見に共通する
点は、旗に顔の絵を入れ、

イ		ア	
30字	20字	30字	20字

ということですか。ちがう点は、
ということですか。

(2) ② 部は、どのようなねらいで発言していますか。その説明として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 これまでに出てきたいくつかの意見を一つにまとめようとしている。
- 2 話し合いが進まないのを、考えをまとめる時間を与えようとしている。
- 3 話し合いをする上で大切にしたい約束を確かめようとしている。
- 4 発言の理由を聞いて、話し合う必要があるのかを考えようとしている。

【資料1】児童会の委員が提案をした内容の一部

目的：元気なあいさつをして、学校生活を明るくする。

提案①：あいさつをよびかけるポスターを校内にはる。
⇒ポスターは、全学年を対象にして、希望する人に出してもらおう。

提案②：毎週月曜日を「あいさつデー」にする。
⇒「あいさつデー」の日は、児童会の委員が登校の時間に学校の出入口に立ち、あいさつをよびかける。
～（提案が続く）～

【資料2】提案に対する学級の意見と児童会の委員の考えのメモ

〔意見①〕	→	〔委員の考え〕
<p>ポスターは、仕上げるまでに時間がかかるので、標語のような短い文のほうが取り組みやすい。</p>		<p>[案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ポスター…取り下げる。 ●標語…取り上げる。 <p>[理由]</p> <p>標語のほうが時間をかけずに取り組むことができ、多くの人があいさつの大切さを考える機会になる。</p>

〔意見②〕	→	〔委員の考え〕
<p>「あいさつデー」のときは、あいさつをする場面を増やすために、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがよい。</p>		<p>[案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●下校の時間…取り上げない。 ●登校の時間…提案のとおり。 <p>[理由]</p> <p>下校の時間が学年によってちがう、委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしい。</p>
～（メモが続く）～		

第一小学校では、「あいさつ運動」に取り組むことになり、児童会の委員が、【資料1】のように提案をしました。その提案に対する学級の意見と児童会の委員の考えをメモしたものが、【資料2】です。そして、【資料3】は、【資料2】をもとにして、児童会の委員が書いた児童会だよりの一部です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料3】 児童会だよりの一部

❖❖❖❖❖ 「あいさつ運動」に取り組みます ❖❖❖❖❖

児童会では、5月から「あいさつ運動」に取り組むことにします。先日、児童会の委員がみなさんに提案をした内容について、いくつかの学級から意見が出されました。そのことについて、委員の中で改めて考えたことを下のよう❖❖❖❖❖にまとめました。もう一度、学級で考えてみてください。



※取り組む内容や方法は、次回の代表委員会で決定します。

〔意見①〕 ポスターは、仕上げるまでに時間がかかるので、標語のような短い文のほうが取り組みやすい。

〔委員の考え〕 児童会の委員としては、ポスターは目に入りやすく、印象に残るので、効果があると考えていました。しかし、意見のとおり、ポスターを仕上げるためには、やはり時間がかかると思いました。

そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。

ア

〔意見②〕 「あいさつデー」のときは、あいさつをする場面を増やすために、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがよい。

〔委員の考え〕 下校の時間については、児童会の委員の中では話題になっていませんでした。確かに、意見のとおり、登校の時間だけでなく、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがあいさつをする場面は増えるでしょう。

イ

～（たよりの内容が続く）～

3

関口さんの学級では、伝記に取り上げられた人物の生き方や伝記の書き表し方について、分かったことや考えたことを発表し合うことになりました。関口さんのグループは、冒険家の植村直己なおみについての本を二冊さつ選び、それらを読むことにしました。それぞれの本の一部である、次の【資料1】と【資料2】とを比べて読みましょう。

【資料1】と【資料2】についての説明

植村直己は、南極を犬ぞりで旅する冒険を夢見ています。そこで、まず北極へ行き、きびしい環境かんきやうでの生活に慣れようと考えました。その北極で、植村は、「エスキモー」とよばれる先住民※と生活を共にすることにします。

次の【資料1】と【資料2】はどちらも、船で先住民の住む村に着いた日の植村の様子を書いた場面の一部です。先住民は、初めて会う植村のことを気にしています。

※「先住民」…その土地に昔から住んでいる人々のこと。

植村直己
一九四一年（昭和十六年）生まれ。
日本人として初めて、世界で一番高い山であるエベレストに登るなど、数々の冒険を成功させた。

植村直己の写真

【資料1】

（岡本文良「植村直己・地球冒険62万キロ」にみる。）

【資料2】

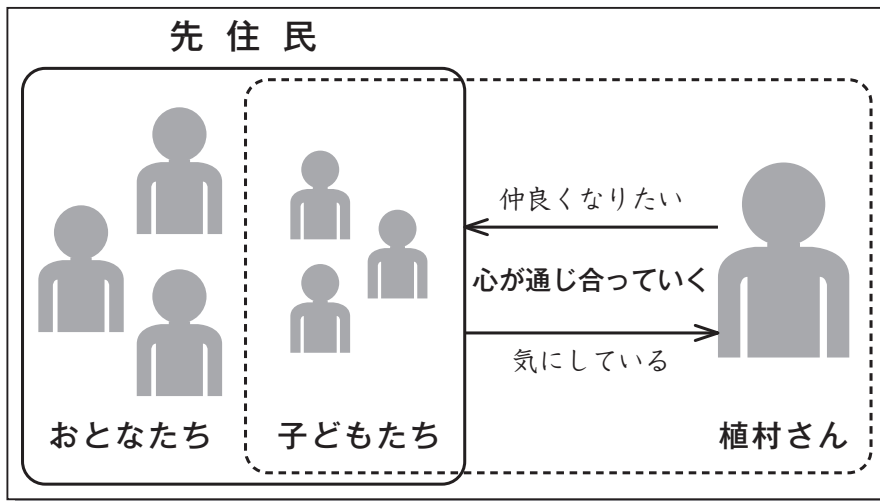
（植村直己「北極に駆ける」にみる。）

(国本文題「植村直巳・地球冒険記」万キロ「下」下。)

(植村直巳「北極」題下「下」下。)

次は、関口さんがまとめた登場人物の関係を表した図と、その図をもとにして、グループで分かったことや考えたことを話し合っている様子の一部です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【関口さんがまとめた図】



【関口さんのグループが話し合っている様子の一部】

関口 この場面に出てくる人物の関係を図にまとめながら読むと、どちらの資料も植村さんと先住民の心が通じ合っていく様子が書かれていることが分かりました。

清水 わたしは、植村さんが先住民と仲良くなるために、ラジオ体操を思いついたところに感心しました。

松坂 ラジオ体操をしたことは、どちらにも書かれていましたが、【資料2】には、うでをひっぱりあう遊びのことも書かれていました。

橋本 その遊びの中で子どもたちの手のあたたかさを感じた植村さんは、「ア」と確信しました。このような気持ちがある【資料1】にも書かれていましたね。

松坂 はい。【資料1】には、「これでもう、だいじょうぶだ」と書かれていました。ただ、【資料1】では、子どもたちの様子からだけでなく、関口さんの図のとおり、集まってきたおとなたちの様子からもそのように感じたのだと思いました。

関口 そうですね。【資料1】は、植村さんと子どもたちの行動を中心に、全体の様子を外から見るとように書かれています。一方、【資料2】は、おとなたちの反応はよく分かりませんが、植村さんが感じたことはよく分かるように書かれています。

清水 なるほど。だから、【資料2】のほうが先住民と何とかして仲良くなりたいたいという植村さんの気持ち伝わってくるんですね。特に、「イ」という文には、その気持ちが強く表れています。

橋本 それは、書き手がちがうからですね。【資料1】は、ウによって書かれたもので、【資料2】は、エによって書かれたものです。

関口 書き手がちがうということは、【資料1】では、植村さんのことが「オ」と書かれ、【資料2】では、「カ」と書かれていることから分かります。

（話し合いが続く）

一 ア ・ イ の中に入るふさわしい言葉や文を、【資料2】の中からそれぞれぬき出しましょう。

二 ウ ・ エ ・ オ ・ カ の中に入るふさわしい言葉を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○ ウ ・ エ は、「植村さん」・「先住民」・「植村さん以外の書き手」の中からそれぞれ選んで書くこと。

○ オ ・ カ は、【資料1】・【資料2】の中の言葉をそれぞれぬき出すこと。

平成23年度 全国学力・学習状況調査

平成23年4月 文部科学省